

## 第2回秋田市総合計画・地方創生懇話会 全体会 会議録

日 時 平成27年9月1日（火）午後3時～午後5時45分

会 場 秋田キャッスルホテル

### 出席者

#### 秋田市総合計画策定懇話会委員（18名中14名出席）

三浦潔委員、進藤史明委員、山口邦雄委員、金持史宣委員、柴田誠委員、加藤敬委員、小国輝也委員、佐藤裕之委員、小杉栄次郎委員、小野泰太郎委員、山崎純委員、菅生紀光委員、田口清洋委員、佐々木暁子委員

### 市側

石井副市長、鎌田副市長、企画財政部長、企画財政部次長、企画調整課長、人口減少対策担当課長、企画調整課参事、企画調整課長補佐

### 次 第

- 1 開会
- 2 全体会①
  - (1) 本日の会議の進め方等について
- 3 分科会
  - ① 産業振興・雇用づくり分科会
  - ② 地域資源活用・魅力向上分科会
  - ③ 子育て・健康長寿分科会
- 4 全体会②
  - (1) 分科会の内容報告
  - (2) 意見交換
  - (3) その他
- 5 閉会

## 第2回懇話会会議録

1 開 会 (省略)

2 全体会①

会長	<p style="text-align: center;"><b>議事(1) 本日の会議の進め方等について</b></p> <p>始めに本日の進め方等について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>本日は基本構想の原案として資料1と資料2を、地方人口ビジョンの原案として資料3を、地方版総合戦略の概略を資料4で提示している。</p> <p>今回はこのうち資料2の成長戦略について分科会における主なテーマとして議論していただきたい。</p> <p>なお、11月に予定している第3回懇話会では基本構想と地方人口ビジョンについて、本日の議論などを踏まえた修正案を提示したいと考えている。また総合計画の推進計画原案を提示し、具体的な取り組み事業などを示すほか、人口減少対策に関する基本目標や具体的施策などを盛り込む地方版総合戦略の原案を提示し、議論していただく予定としている。</p> <p>2月の第4回懇話会では推進計画と地方版総合戦略の修正案を提示する。</p> <p>本日の会議の進め方等について、この後に分科会に分かれて議論していただき、分科会ごとに担当する成長戦略を中心に意見交換をお願いします。</p> <p>議論の過程においては、担当以外の成長戦略や将来都市像別政策、秋田市人口ビジョン等についても必要に応じて意見交換していただきたい。</p> <p>分科会終了後、再度全体会を行ない、各分科会長からの報告の後、意見交換を行う。この中では分科会の内容に限らず秋田市のまちづくり全般に関しても意見交換していただきたい。</p>
会長	<p>質問はないか。</p> <p>(質問なし)</p>

3 分科会 (別紙参照)

4 全体会②

### 議事(1) 分科会の内容報告

会長 全体会を再開する。分科会の意見交換の内容について、各分科会長から報告をお願いします。

まず、産業振興・雇用づくり分科会長の私から報告する。

全体の総論的な話として、総合計画は総合性が必要で、目配せが必要であるが、戦略について言うと、対象を絞れば絞るほどその分野での効果は上がると言われている。そういった点から、もう少し秋田市の特徴や強みを明確にして絞った方がいいのではないかという議論があった。

また、北東北の日本海側において秋田市は中核都市であり、同じ秋田県内にあっても他都市と比べると頭一つ出ており、そのポテンシャルをもっと活かすべきという議論もあった。

商業・サービス系の議論では、秋田市は都市型観光の都市として意識し、都市型産業としての3次産業の発展に努めてはどうか。

そうした場合に公立美術大学や国際教養大学、ノースアジア大学、秋田大学、県立大学などの大学資源を活かすべきという議論もあった。

宿泊客の収容能力は県内で秋田市が一番であり、今後期待ができる。都市機能の集積を活かすことが商業・サービスの産業振興のあり方ではないか。

工業・製造系では、再生可能エネルギー、火力発電所の建設などエネルギー関係の産業はすそ野が広く、核となるのではないか。

とりわけ風力発電の聖地となれば、人の交流も増加するのではないかといった議論もあった。

いずれにせよ少子化が進み事業者も減ってきているので、後継者を育てる視点と、起業・創業の視点が重要ではないか。学生の起業が全国的に多くなり、秋田市内でも事例があるので、それをサポートする機関が必要という議論もあった。

また、大学や高度医療機関が揃っており、教育・医療といった秋田市の強みを武器にして人を集めるべきという議論もあった。

最後に、戦略ということなので可能な限り固有名詞や特定の団体、地域名を入れ、メリハリを付けた方がよいといった議論もあった。

以上が、産業振興・雇用づくり分科会の報告であるが、補足説明はないか。

- 委員 教育・医療が秋田市の強みという議論に関して、教育・医療という言葉が成長戦略の中に出ていないが、この点についてどう考えているのか。
- 会長 事務局からコメントはないか。
- 事務局 人づくりという意味では含まれている内容であるが、明確に抜き出してポイントで記載していない。
- 会長 医療は子育て・健康長寿に関わり、教育は資源と捉えることもできる。あるいはそこで人が集まって活動するという点では産業にも関わると思う。
- 委員 改めて教育の視点から成長戦略の内容を見るとそれらが不足している印象を受けた。
- 会長 次に地域資源活用・魅力向上分科会から報告をお願いします。
- 委員 地域資源活用・魅力向上分科会では、先ほどの報告と重なるところもあるが、地方創生の視点からすると、今回の計画は総花的で主語を変えればどこにでも通用するような内容であり、固有名詞を入れるなど工夫すべきという意見があった。
- やり方としては、個別具体的な記載が難しいとすれば、例えばこういうものがあるというようなモデルの提示が戦略の中にあっただ方が、イメージもできるし、エッジが効いてくるのではないかと。特に地域間競争という観点からすると、秋田でしかできないものも入れていかないと勝てないのではないかとという議論もあった。
- それは何かと言うと、田舎らしさを出すことや、コンテンツにこだわることであり、それはコンセプトをしっかりと持つということにつながり、それが地方創生における地域間の戦いだと思われる。まだエッジが効いていない。
- そういった中で、物や人や景観やイベントなど、秋田市に行ったらこんなことがあるとイメージができるようなものをコンテンツとして鍛え上げていく。そういったことを盛り込む余地があるのではないかとという議論もあった。
- 戦略3にも絡むが、クリーンエネルギーという点では、秋田市が風力発電、バイオマス、太陽光など、エネルギーの生産拠点と

いう姿をもっとアピールするべきではないか。

また一方で、デマンド側のスマートシティ構想とサプライ側の再生可能エネルギーを組み合わせ、それと健康と重ねて「スマートウェルネスシティ」というコンセプトを打ち出せるのではないか、そうすると国内でも特徴のある都市のあり方になるのではないかという意見もあった。

また、クリーンエネルギーという新しいものと木質都市を組み合わせると、都市景観や生き方を含めて秋田市ならではのものができるといけないかという意見もあった。

そして、まちづくりは行政だけではなく、協議会方式で、市民参加というわけではないが、企画を立てる際に有識者を集め、この会議のようにアイデアを出すという過程を大事にするべきという意見もあった。

戦略2については、秋田市は秋田県内の交通の基点、ベース基地なのでもう少し滞在時間を長くし、外貨を獲得できるような戦略を盛り込むべきとの意見があった。

また、住民がそぞろ歩きできるようなまちを市としても演出するべきであり、そういった観点ではバスを含めて公共交通機関を見直すべきとの意見もあった。

そして、スポーツの盛り上がりについて、先般バスケットの3オン3も行われていたが、こういったものが常に行われているというイメージづくりが大事ではないかとの意見もあった。

さらにコンテンツに絡むが、例えば工芸の世界では過去にそれなりのレベルのものがあつた。そういったものをもう一度掘り起こして産業化し、それを観光や文化につなげていくことが必要という意見もあった。

他にも様々な意見が出たが、一言でまとめると、先ほど固有名詞という話が出たが、モデルの提示やコンテンツを出していくということに尽きるのではないか。

また、戦略3に関して、クリーンエネルギーを戦略的なものとして進めると、日本でも特筆すべき都市像が描けるという意見も出た。

会長 他に補足はないか。

委員 成長戦略が全体的な印象としてぼやっとしているので、具体的な話を入れるべき。

その中でクリーンエネルギーと木質、木造であるが、言葉だけ見ると少し古い、ノスタルジックなイメージがあるのだが、それは実は最先端の技術が使われている。それが組み合わせり、そこ

に農村の生活が被さってくると他の地域にはない新しい地域像が見えてくるのではないかという議論があった。

委員 先ほどの説明の中で秋田らしさ、田舎らしさを出すべきといった発言をされたことは、具体的にはどのようなイメージで出すべきだと思っているのか。

委員 この戦略を見ると主語を変えればどこでも通用するような中身になっており、秋田らしいというのは何かということ議論して、突き詰めていかなければ戦略として魅力のあるものにはならない。

具体的には、例えば秋田市は県内でも中核の都市であり、また、気性が激しくて古い物を壊してきたので、山形や盛岡のように古くていい物が残っていない。

しかし、その中でも探していけば、例えば秋田の蔵は屋根を支える斜めの支持材が特徴的であり、そういったものも秋田らしさである。

また、藩政時代からの町割りが残っているが、秋田の藩政時代からの歴史文化として、何か使えないか。寺町などは古い物がそのまま残っているのに誰も手を付けて観光化しようとしないうし、札所文化などもあるのに市民もあまり興味を持っていない。

こういったことから秋田らしさというものを積み上げていくべきという議論である。

委員 分科会長と同じく、総合計画がどこでも通用する内容なので特色を出さないといけないと思う。

秋田だけではないが、何でも中央のコンサルタントやデザイナーの話を聞けば全て正しいと思い丸投げしてしまう。そのため各地に金太郎飴のようなまちができる。

まちなかも無機質で都会的な建物を作っても、都会から来た人は誰も感動しないので、やはり秋田なら田舎らしくて生活感がにじみ出ている、都会から来た人が面白いまちだと思えるようなものを作っていく必要がある。

委員 スマートウェルネスシティについて補足する。

秋田市が掲げているコンパクトシティは、都市の効率化を図るという視点で考えられているが、これに健康というものを加えてはどうか。健康には歩くことが大切であり、中心市街地もできるだけ車を停めて、歩いて移動するなど、特に秋田県は超高齢化社会を迎えるので、健康をテーマにしたまちづくりが必要だと思う。

また、それに風力や太陽光などによるエネルギーの自立ということも含めてスマートウェルネスシティという提案である。

会長 秋田市ではエイジフレンドリーシティに取り組んでいるが、それとスマートウェルネスシティとの関係はどうなるか。

委員 お年寄りも子どももみんなが歩き回れるまちといったコンセプトを全国に発信することが大切ではないかということで、このようなネーミングにした。

会長 都市のフィジカル像に力点を置いた表現と理解した方がよいだろうか。

委員 先ほどの秋田らしいという話に戻るが、非常に重要な視点だと思う。しかし、戦略に盛り込む場合、どのように盛り込むかというところが非常に難しいところだと思う。

項目としてどこかの戦略の中に入れ込むか、トータルで見ると形として秋田市独自のものが見えてくるという、その両方の見方があると思うので、そのあたりを市でも考えてほしい。

また、田舎らしさというものは秋田市に出せるだろうか。

委員 秋田県が「高質な田舎」というコンセプトにこだわっており、また、秋田市は先端都市というより田舎っぽいというコンセプトの方が受けはいいと思う。

会長 どのエリアを対象にこの計画を打ち出すかによると思う。全国レベルで打ち出すのか、東北レベルで打ち出すのか、北東北、日本海側エリアで打ち出すのか。それによって、田舎らしさという打ち出し方も位置付けが変わってくるのではないかと。

よくこういった会議で「らしさ」という議論が出るが、「らしさ」から攻めていくやり方と、一つ一つの実態がいくつか重なると「らしさ」になるという2つの見方がある。

これまでいろいろな会議に出て、「らしさ」を正面切って議論するとあまりいい着地点にならなかった。「らしさ」は議論のしかたを工夫しないといけない。

委員 私は後者で、例えばモデル的にこういうものがあってこういうものもあり、したがって「らしさ」というのはこういうものだという方法が健全だと思う。

それは一言一句言語で規定できるようなものでもなく、そうい

った意味ではある程度ぼやっとしても仕方ない部分もあると思うが、それぞれの事例を見ると「らしさ」をイメージできる、といった計画づくりにトライしなければならない。

会長 エッジの効いたものという話があったが、エッジの効いた戦略のパーツが3つ出てくれば、3つ合わせて秋田らしさという形になると思う。そのパーツをきちんと出していくことが重要ではないか。

次に、子育て・健康長寿分科会から報告をお願いする。

委員 子育て・健康長寿分科会では、戦略4と5について意見交換し、大変盛り上がった。

戦略4と5に入る前に、そもそもの戦略の並び順についての意見があった。秋田市が昨年行った市民意識調査の結果によると、子育て支援をもっと充実すべきだという市民の意見が多かったので、その市民のニーズを大事にするのであれば、戦略4や5ではなく、もう少し前の段階で打ち出すべきではないかという意見や、現計画と次期計画の成長戦略を見直した点、その違いをもっと明確にすべきではないかという意見があった。

戦略4に関しては、専業主婦で在宅の子育てをしている者も働きながら子育てをしている者もどちらも子育ての不安が解消されておらず、当事者の視点が足りないのではないかという意見があった。

また、背景（ねらい）の部分に、未婚化・晩婚化という説明があるが、晩産化という言葉プラスしてはどうかという意見もあった。

また、その前の段落で、都市の持続的な発展を妨げるという記述があり、この文章は少し言い過ぎではないか、いや、このぐらい言わなければならないというふうな相互の意見があった。

生み育てる前に、そもそも出会いの場が少ないのではないか。秋田県でも結婚支援センター等で力を入れているが、まだ出会いの場が足りないという意見もあるようなので、秋田市としてももう少し出会いの場の創出に力を入れるべきではないかという意見もあった。

また、生み育てやすいという文章について、生み育てやすいだけでなく、「生む」という言葉も必要なのではないか。もう少し「生む」ことがしやすい秋田市といったプログラムを考えるべきではないかという意見もあった。

その点について、20代の早い時期に第一子をもうけるということが少子化対策につながっていくので、若い世代の意識啓発も重

要であり、また、生みたい人が生めるように不妊治療の施策に対して見直しを図るべきではないかという意見もあった。

また、晩産化について、今後晩産化、少子化、長寿が複雑に絡み合っ、子育てをしながら介護をするダブルケアの世帯も増えてくるため、超高齢化の秋田市にとって、そのダブルケアの視点を施策として打ち出すことも重要ではないかという意見もあった。

戦略5に関しては、高齢者が外出する機会を増やすために、交通手段として高齢者コインバス事業の対象年齢の見直しが必要ではないかといった意見や、健康づくりという点で、軽いスポーツに親しむなど、体を動かす機会をさらに充実していくべきではないかという意見があった。

また、空いている施設や土地を活用して、町内単位のコミュニティの絆づくりを施策として打ち出すべきであり、新しくお金をかけて整備するのではなく、今ある資源を活用し、例えば学校の空き教室を高齢者に開放したり、市民農園を広げて高齢者が土に触れるなどの機会を増やすべきという意見もあった。

また、人と人、人と資源をつなげるコーディネーターが不足しているので、こういった人材の育成も必要ではないかという意見もあった。

市だけでなく、人材には地域の人や民間の力を活用することで、地域力の活性化にもつながるのではないかという意見もあった。

高齢者の健康づくりには体だけではなく、心の健康も重要な視点なので、心の健康づくりに対する施策も必要ではないかという意見もあった。

会長 他に補足はないか。

委員 秋田市では子育て広場などを準備し、PRもしているつもりだと思うが、利用されていない施設があって、もったいないという話が出た。

立派な体育館があるコミセンがいくつもあるのだが、子どもとボール遊びをしに行った時、空いていたのに、ある程度の人数でなければダメだと言われたことがある。こういった話だけではなく、活かしてない資源がたくさんあるのではないか。

関連して、お金や時間に余裕がないと思うので、一石二鳥三鳥を狙う対策が必要だと思う。

出会いの場という話だが、お見合いパーティは行くのに勇気があるので、例えば市民農園を広げて、20代や30代の結婚していない男女5人グループに借す。すると1人足りないから友達に声を

かけてそれが交際に発展する。しかも耕作放棄地も使えるといった二鳥三鳥を狙っていかないともったいない。また、その方が少なくとも1個は目的が達成されるなど、そういう視点が必要ではないか。

また、高齢者向けの施策として、法律が変わって雇用延長した世代の大量退職の年が2、3年後に来るという話があり、逆算するとここ2、3年が勝負の年だと思う。

高齢者が家に閉じこもって外出しなくなると認知症になったり、体が弱って介護が必要な状態になり、介護の負担が増える。一旦周りとのつながりを断ってしまった人を引き出すのは難しいので、その前に、2、3年後に退職する人に対して、市民農園やイベント、サークルなどの情報を提供し、退職したら何かをやるというアクティブシニアになってもらうことを目指して施策を練ってはどうかという話も出た。

## 議事(2) 意見交換

委員 これから高齢化が進む中で公共交通機関は重要な位置付けになると思うが、秋田市内のバスは、乗り換えをするとその度にお金を払うという料金体系であり使いにくい。これをゾーン制にするべき。

また、実際の今のまちのあり方にあった抜本的な路線の見直しをしてほしい。それとJRの交通とのリンクを図ることで、今よりも自家用車に頼らなくても行動できるようになると思う。

先ほどのコミセンの利用を断られたという話について、自分も似たような経験があるが、これは管理者目線だから起きる。これからはユーザーの視点でまちづくりを考えないといけないと思う。ルールがあるからということで管理者目線で物事を決めてしまうと物事が膠着してしまう。

会長 公共交通機関の路線や料金をどのように見直していくべきか。

委員 現状では乗り換えで路線が変わるとその都度料金を支払わなければならないが、海外のようにゾーン制にして、エリア内は何回乗り換えても同じ料金となれば使いやすい。「中心市街地循環バス(ぐるる)」のような回遊バスも一つの有効な手立てだと思う。

実際にバスの見直しをしてゾーン制を取り入れようとしている自治体があるし、ヨーロッパや台湾などは、地下鉄でゾーン制を取り入れている。

会長	他に全体を通して何かないか。
委員	<p>秋田市は人口の減少や高齢化の進展を踏まえて、地域拠点を核に既存の都市機能の活用・連携を強化した多核集約型の都市構造によるコンパクトシティを提唱している。</p> <p>この多核ネットワーク型コンパクトシティを目指すといった方針を明確にして、戦略ではなく、計画全体を貫く方針として位置付けるべきではないか。</p> <p>市内を7つの地域に分けているが、それぞれの地域には地域に根ざした産業、文化、公共施設等があるので、そうした特性を活かして、それぞれの地域が秋田市全体の中でどういった役割を果たしていくのか、どういった位置付けにあるのかといったことを明確にしたまちづくりを進めることが重要である。</p> <p>その地域で必須の公共サービスや、都市機能、生活、医療、福祉関係などは守りながら、それ以外の秋田市全体をカバーする施設や機能については、秋田市民全体が享受できるようなネットワークを強化していくべきであり、それが行政の効率化や市民サービスの向上につながると思う。</p> <p>それぞれの地域の歴史や有形無形の文化を地域住民の方々が守り、育てて、磨き上げて魅力を発信していくといった取組を進めるべきであり、特に都市機能の集積もしくは秋田の顔として、中心市街地の活性化が重要であり、今こそ力を入れるべきではないか。</p> <p>ネットワークの強化に関して公共交通機関の話も出ているが、高齢化社会では車を運転できない方など、様々な面で公共交通機関に頼らざるを得ない方がいるので、公共交通機関の利便性の確保が重要である。また、ハードだけではなく、ICTを活用して高齢者が必要なサービスを受けられる取組も必要ではないか。</p> <p>高齢者に関しては、秋田市内にある大学を活用して、秋田市全体でのCCRC、すなわち健康な時から介護が必要な時までの継続的なケアや、生活支援や社会活動、生涯学習等に参加できるような共同体を目指すべきである。</p>
会長	<p>今日は成長戦略について議論したが、「戦略」はもともと軍事用語であり、「計画」や「ビジョン」とは違う。「戦略」としてまとめたいのであれば、もう少しその点を考えてほしい。重点事業、重点施策という意味だとすれば、国が「戦略」という文言を使っていて、それに合わせていると最初に示すべき。</p> <p>今求められているのは「戦略」かもしれないので、庁内で議論してほしい。</p>

それでは、市の立場から副市長からコメントをいただきたい。

石井副市長

分科会の報告も含めて率直に受け止めている。いただいた意見を今後どう具体化していくのか、これは総合計画への記載や、具体的な事業をどうするかという話になると思う。

産業振興・雇用づくり分科会の報告について、本市の就業人口構造は8割が第3次産業従事者であり、観光産業も大事だと思う。観光産業はすそ野が広く、6次産業や地域資源の発掘等々あるので、大学との連携という話もあったが、しっかり取り組んでいきたい。

地域資源活用・魅力向上分科会の報告について、秋田らしさという意見が出たが、現在、まだ世の中に知られてない個別の資源をピックアップして磨きをかけ、例えば心や楽しむといった5つのコンセプトによる2泊3日ほどの滞在のコースを検討している。

公共交通の議論もあったが、路線バスについては、路線が中心部に向かっているので横軸の移動は大変であり、観光客が来た時に秋田市の路線バスは全く機能していない。このため、現在タクシー会社と協議して4時間1万円ほどで乗れる仕組みを検討している。

子育て・健康長寿分科会の報告について、高齢者コインバス事業の対象年齢引き下げの話が出たが、高齢者がいきいきと暮らせるために必要だと思っている。健康づくりについても、スマートウェルネスシティの話があったが、タニタ食堂が進出するなど健康づくりの機運が高まっており、市では健康長寿社会の実現を目指している。

一方で、市の財源も無尽蔵ではないので、新たな施策・事業に取り組むため、現在既存の政策経費を20%ぐらい削減できないか検討している。今年は秋田市の正念場の1年になるので真剣に取り組んでいる。

そういった意味では、民間の力を借りながら人口減少対策に取り組みたい。特に雇用については雇用の安定化のため、市独自に非正規雇用から正規雇用への転換に対する補助金等も考えている。今回いただいた意見について、計画と具体的な事業の検討において、しっかりと肝に銘じて取り組んでいきたい。

最後に、今日14時から知事と市長が記者会見を開き、県市連携文化施設の建設候補地が県民会館跡地、それに伴い市としてJR秋田駅周辺の開発、旧県立美術館の活用、旧さきがけ跡地の民間による活用、ニューシティ跡地の活用と、5つの大きな方針を先程市長が示した。

何でも中心市街地に整備すればいいという考えではなく、中心市街地と6つの地域中心それぞれに歩いて生活できるような機能を持たせたいと思っている。

若い人たちが秋田市の魅力を実感でき、次世代につなげられるような計画にしたいと思っているので、今後ともよろしく願います。

鎌田副市長

今回は主に成長戦略について議論していただいたが、現時点で示した内容は将来都市像ベースの施策も含め、どちらかというと総合的な内容であり、個別具体的な表現が足りないという意見が多かったと思う。

現在、成長戦略の事業を含めて来年度何をするか検討しているが、その中で政策的な経費については原則既存事業を20%カットし、それを新たな事業に特化して、メリハリをつけようとしている。現時点でまだ個別の事業の具体例を示すことができず歯がゆいところである。

様々のご意見や具体的な提案をいただいたところであるが、大半は実施する方向になるのではないかと考えている。

今後、第3回以降で具体的な推進計画のご審議をいただくことになっており、さらに様々のご意見をいただければと思っている。

最後に、会長から意見をいただいた「戦略」の表現については、次回まで検討させていただきたい。今後ともよろしく願います。

会長

これで意見交換を終了する。事務局から何かないか。

### 議事(3) その他

事務局

本日、分科会の時間が足りなかったという意見もあったが、委員から要望があれば再度分科会の開催も検討する。ご意見があれば事務局へお寄せいただきたい。

次回の懇話会は11月上旬を予定しているのでよろしく願います。

5 閉会